



文部科学省

選考採用

M

E

X

T

Ministry of Education,
Culture, Sports, Science and
Technology - JAPAN



菅野 祐太

Kanno yuta

令和7年度入省

初等中等教育局
初等中等教育企画課課長補佐

前職では東日本大震災の被災地であった岩手県大槌町でNPO職員として、町の教育復興、高等学校の魅力化、カリキュラム改革に携わっていました。

未来の当たり前前をつくる 先端技術で学校現場の

文部科学省に転職を決めた理由・魅力

東日本大震災の発生から13年、岩手県大槌町の教育に携わる仕事をし、地方の教育の魅力と難しさを目の当たりにしてきました。震災後のそれぞれの地域の教育復興の歩みは一律ではなく、地域の子供・保護者・学校・行政・住民が想いと創意工夫を重ね、主体的に行われる教育にこそ豊かな学びが育まれることを実感しました。それを支えるのは制度や仕組みです。そうした学びの場を目撃してきた者だからその視点で全国の教育行政に波及する制度や仕組みをつくり、支えたいと思いました。

実際に働いてみて、旗振り役としての国への大きな期待を感じることもあり、やはりこの仕事を選んだことは間違いではなかったと感じています。



現在の仕事内容・やりがいや難しさ

私は現在、生成AIをはじめとした先端技術を学校教育の中でいかに活用できるかをテーマに、関係機関や学校と実証研究を進め、その成果を全国に広げるため、学校や教育委員会を支援しています。こうした取組を学校現場等で推進するには、国の視点のみで課題を捉えていても限界があるように感じています。一方、学校現場や企業・大学等とそれぞれの視点で課題を共有し、連携することを通して、共通の目標を設定し、その実現に向けて協働しチームとして前に進むことが出来たときには大きな手応えを感じることができます。

今後どのような仕事に挑戦したいか

文部科学省に入省する前には国の設置する委員会の委員をしていました。その際に職員の方が関係機関と心を砕いて調整される姿を見て、社会にとって非常に重要な調整弁としての黒子としての役割を感じました。私自身も、関係者間で意見が異なり調整が難しいことを少しでも前に進めることができるよう、黒子としての役割を全うできる力を身につけたいと思っています。

プライベートでは登山に行くこともあるのですが、まずは登るための体力づくりを頑張らねばと思っています(笑)

応募者へメッセージ

他の業界から途中で応募することにな不安を感じたり、悩まれたりしている方も多いと思います。私も不安でしたが、想像以上に人事課や配属された課の周りのみなさんが気にかけてくれ、支えてくれます。そしてその不安を超えて余りあるやりがいがある仕事にはあると思います。このチャレンジの一番の魅力は文部科学省でないと出来ない仕事があるということです。今の仕事にある程度満足はしているのだけれど、もっとチャレンジしてみたいという方は是非応募してみてくださいはいかがでしょうか。お待ちしております。

令和7年度 生成AIの利用に関する夏季公開学習会

開催日: 2025年7月29日(火) 13:00~15:30

会場: 日経ホール

行政説明: 寺島 史朗 氏

パネリスト: 佐藤 和紀 氏, 中村 めぐみ 氏, 菅野 祐太 氏, 東太田 理恵 氏

基調講演: 松尾 豊 氏

講師・モデレーター: 高橋 純 氏

主催: 文部科学省



服部 明日希

Hattori Asuki

令和6年度入省

科学技術・学術政策局
人材政策課専門職

前職では、理系学生に特化した就職活動・採用サービスを運営するスタートアップに6年ほど勤めていました。

科学技術と社会をつなぐ

文部科学省に転職を決めた理由・魅力

大学在学時、研究の道で苦勞をしながらも挑戦続ける先生方の姿に、強い尊敬の念を抱きました。こうした方々の力になりたいと思ったのが、研究者を支援するキャリアを志したきっかけです。理系の学生が自身に合った会社と出会い、その能力を発揮できるよう支援する、という前職の仕事にもやりがいを感じていましたが、より研究現場に近い課題に向き合いたいと考え、文部科学省への転職を決めました。入省後は、「今後の科学技術人材政策の方向性(中間まとめ)」の取りまとめに携わり、大学等との意見交換を通じて、科学技術人材を取り巻く課題への理解を深めることができました。省内には熱い想いを持つ人が多く、前向きな雰囲気の中で、日々やりがいを感じながら業務に取り組んでいます。

現在の仕事内容・やりがいや難しさ

私は現在、「科学技術コミュニケーション」に関する政策を推進しています。科学技術の急速な発展に伴い、社会との橋渡しを担う「科学技術コミュニケーション」の重要性は年々高まっています。「科学技術コミュニケーション」という研究成果の発信や科学館での展示を想起されることが多いですが、科学技術のリスクについての対話や研究開発段階での市民参画まで、非常に多種多様な取組を含んでいます。それらを強力に推進するためには、より多くのステークホルダーを巻き込む必要があると感じており、今後注力していきたいと考えています。

今後どのような仕事に挑戦したいか

前職では理系人材の採用に携わる中で、人や組織の重要性を実感する機会が多くありました。入省後、取りまとめに関わった「今後の科学技術人材政策の方向性(中間まとめ)」の中でも、「科学技術人材」が科学技術・イノベーションを支える中核的基盤として位置づけられており、人の重要性を改めて認識したところです。現在は分野横断的な人材政策に取り組んでいますが、今後他の部署に異動しても人材育成の視点を大切にしたいです。また、入省前は、自分の関心分野以外への配属に不安もありましたが、実際に働く中で興味の幅が広がり、他分野の理解が自身の担当分野にも活かせることを知りました。今後は幅広い経験を通じて政策の視野を広げていきたいと考えています。

応募者へメッセージ

私は、「使命」という言葉がとても好きです。「命(自分の人生の大切な時間)を使って何をしたいか?」という問いに対する答えが「使命」だと捉えています。文部科学省は、昨年、ミッション・ビジョン・バリューを策定しました。ミッションとは、使命であり、文部科学省のミッションは「人と知を育み、次世代の子供に向けて、豊かな未来を紡ぐ」です。御自身の使命と文部科学省のミッションが重なっている方は、是非文部科学省と一緒に働いていただけたら嬉しいです。人生をかけて取り組むべき、意義のある仕事があなを待っています!





大野 紘子

Ono Hiroko

令和7年度入省

総合教育政策局
国際教育課国際理解教育係長

前職では書店業界に携わり、企画事業開発部にて本に関するイベントの企画・運営を行っておりました。

篠 未来

Shino Mirai

令和7年度入省

大臣官房会計課
用度班契約第三係長

前職ではBPOサービスのプロジェクトマネージャーとして、業務プロセスの改善や効率化を進めながら、クライアントのニーズに応じたコンサルティングを行うとともに、個々に寄り添った人材育成に尽力しておりました。

未来をつくる体験を生み出す政策の現場で

文部科学省に転職を決めた理由・魅力

大学時代に教育学を学んでおり、将来的には教育に携わる仕事がしたいと考えていたところ、前職で今後のキャリアを考えるタイミングがありました。その際に、教育の根本的な部分に関わりたいと思い、行政であればスケール感のある仕事ができるのではと考えて転職を決意しました。実際に働いてみると、国の方針を形にする仕事に携われること、そして多くの関係者と連携しながら事業を進めることにやりがいを感じています。

現在の仕事内容・やりがいや難しさ

私は現在、高校生の留学(トビタテ留学JAPANや国費留学事業)や、外国人高校生の受入れ事業等を担当しています。国の事業として多くの関係者と調整を行う必要があり、責任の重さや調整の難しさもありますが、実際に留学の出発式や成果報告会に立ち会うと、自分が携わった事業が何百人、何千人ものかけがえない体験活動につながっていると実感でき、大きなやりがいを感じます。

今後どのような仕事に挑戦したいか

今後は、教育分野における国際交流の促進や、若者の体験活動の充実にさらに深く関わっていきたくと考えています。政策立案だけでなく、現場とのつながりを大切にしながら、より実効性のある事業づくりに挑戦したいです。また、ワーク・ライフ・バランスを意識しながら、長期的に持続可能な働き方を模索しつつ、成長を続けていきたいと思っています。

応募者へメッセージ

広く教育に関心がある方にとって、文部科学省は非常にやりがいのある職場です。スケールの大きな仕事に携わりながら、皆さんのこれまでの経歴を生かし、越境人材として挑戦されることを応援しております！



透明性で学びを支え、広がる未来へ希望をつなぐ

文部科学省に転職を決めた理由・魅力

文部科学省の業務や職場環境について伺う機会があり、その中で教育を支える仕事の重要性を具体的に理解できたこと、また、前職にて文部科学省の方と仕事をする機会があり、人柄や仕事に取り組む姿を拝見する中で職員同士が相談しやすい環境であると感じたことが転職を決めた大きな理由です。前職で培ったマネジメント力やコーチング力を活かし、透明性を重視する組織文化の中で、教育の未来に寄与できることに強い魅力を感じています。

現在の仕事内容・やりがいや難しさ

私は現在、調達に係る入札や契約、精算書類の確認、係内の業務管理を担当しています。国の予算を扱うため正確性と透明性が強く求められ、法令や規程に沿った判断を徹底し、説明責任を果たす点に難しさがあります。一方で、教育を支える業務を財務面から支援し、組織の信頼性を高める役割を担えることに大きなやりがいを感じています。

今後どのような仕事に挑戦したいか

今後は、業務フローの見直しを徹底し、マニュアル化や効率化を進めることで、正確かつ迅速な会計処理の実現に挑戦したいと考えています。業務効率化は単なる作業時間の短縮にとどまらず、職員一人一人の負担軽減につながり、結果としてワーク・ライフ・バランスの充実を後押しします。さらに、これまで培った人材育成やコーチングの経験を活かし、若手職員の成長を支援しながら、組織全体の生産性と持続可能性を高める取り組みに挑戦していきたいと思っています。

応募者へメッセージ

文部科学省の業務は教育、科学技術・学術、スポーツ及び文化を支える社会的意義の大きな仕事です。正確性や透明性が求められる難しさはありますが、業務効率化や人材育成を通じて次世代に貢献できるやりがいがあります。行政への入省は特別に高いハードルではなく、これまでの経験を活かし、一歩ずつ着実に取り組むことで挑戦できると感じています。



人と知を育み、 次世代の子供に向けて、 豊かな未来を紡ぐ

文部科学省は、人と知を育むことを通じて、あらゆる人が多様に活躍することのできる、そんな豊かな未来を創造し、そして次世代に繋いでいきます。

求める人材

- ・公務に対する強い関心と、全体の奉仕者として働く熱意を有する者
- ・これまでの多様な経験を踏まえた視点や知見を活かし、文部科学行政をさらに推進できる者
- ・「変革の時代」を乗り切っていくため、未来に向かう豊かなヴィジョンと創造と挑戦の気概を持つ者
- ・採用後も自身の更なる成長が見込まれる資質のある者

※具体的な人材像については、各職種の募集要項を御確認ください。

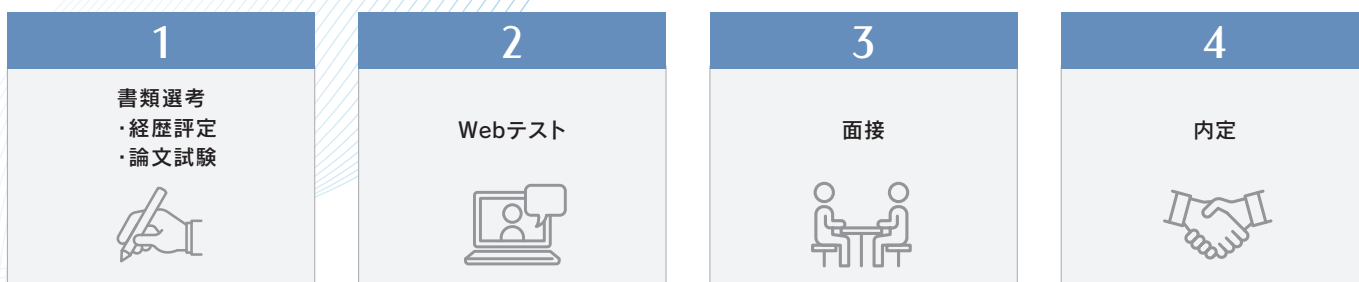
●募集要項

	総合職		一般職
	課長補佐級	係長級	係長級
応募要件	○大学卒業後、採用日時点において、8年以上の職務経験を有すること（見込みを含む）。	○大学卒業後、採用日時点において、3年以上の職務経験を有すること（見込みを含む）。	○大学等卒業後、採用日時点において、以下に示す職務経験を有すること（見込みを含む）。 大学院修了者：6年以上 大学卒業後：卒業後8年以上 短期大学又は高等専門学校卒業後：10年以上 高等学校卒業後：12年以上
職務内容	政策の企画・立案の中核を担う業務		専門的知識や知見を活かして、担当業務を遂行する業務
年収例※	730万円～999万円	580万円～899万円	580万円～799万円

※上記年収例は参考であり、実際の算定にあたっては、個人の経歴等や業務内容を踏まえて算定することになります。

※超過勤務手当、扶養手当、住居手当、通勤手当は含まれていません。

●選考プロセス



※選考プロセスについては、上記より変更になる可能性があります。

採用担当：総合職・事務



川村 匡
大臣官房人事課人事企画官
(併)人事課副長

それぞれの領域でキャリアを積まれてきた方を文部科学省は歓迎します。文部科学行政に多様な視点もたらされ、政策をより一層進展させる役割を担っていただくことを期待しています。総合職は4つの分野を幅広く経験するキャリアパスを歩むこととなります。御自身の専門性はもとより、意欲と好奇心にあふれた方の来訪をお待ちしています。

採用担当：技術



川上 明希子
大臣官房人事課人事企画官
(併)人事課副長

文部科学省では、様々な立場や環境にある人々のことを考え、実現性を見定めながら、各種の政策を立案・推進しています。重層的な政策を練り上げ、着実に推進するためには、これまで培ってきた経験や専門性を文部科学政策へ広く展開してくださる方の参画が不可欠です。是非一緒に、より良い未来づくりを目指していきましょう。

採用担当：一般職・事務



原田 雄一
大臣官房人事課人事調整官

文部科学省は多岐にわたる政策分野を所掌していますが、一般職については多くの職員が文部科学省内における特定の政策分野のスペシャリストとして活躍しています。教育関係、科学技術・学術関係、スポーツ関係、芸術・文化関係等。日本の未来のため、私どもと共に働きたい方、熱い志をお持ちの方、是非お待ちしております。